

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	社会思想史A		
英文授業科目名	History of Social Thought A		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	1、3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	庄司 俊之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
JZM04216@nifty.com	

【主題および達成目標】
<p>思想は社会のなかから生み出され、なんらかの影響を社会へ投げ返そうと企てる。また、その社会のありようは、歴史のなかで漸次変化していくものだろう。だから「社会思想史」で思想を学ぶということは、その思想の背後に存在する、ある歴史的段階のもとにある社会のありようを学ぶこととセットにならねばならない。</p> <p>本講義では現代医療に関するいくつかのトピックスをとりあげて、それを社会史的・思想史的な流れに関連づけて論じていくが、受講者は、銘々に自由な意見をもちつつも、それが社会史的・思想史的な広い視野のなかでどのような位置にあるのかを再確認して欲しい。ある思想的課題（とそれへの様々な対応の仕方）を、思想の歴史や社会の歴史にむすびつけて理解を深める方法論を身につけることが本講義の目標である。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

電気通信大学 平成18年度シラバス

【教科書等】

教科書は指定せず、講義で扱う題材に関連して参照すべき文献はそのつど言及する。さしあたり、クレール・アンプロセリ「医の倫理」（中川米造訳、文庫クセジュ、999円）、米本昌平・松原洋子ほか「優生学と人間社会 - 生命科学の世紀はどこへ向かうのか」（講談社現代新書、777円）など。

なお、思想史に不案内な学生は何か1冊、概説書を用意しておくのが望ましい。たとえば、木崎・阪上・筒井著「社会思想史」（有斐閣Sシリーズ、1890円）などがある。

【授業内容とその進め方】

「社会思想史A」では、現代の生殖補助医療をめぐる諸問題を社会史的・思想的に読み解くことを主題とする。

講義では、まず第1に、前近代/近代社会の対照、第2に医療をめぐる前近代/近代の対照を概観する。こうして現代の前提条件を確認したうえで、第3に、優生思想の歴史を検討する。この思想史の延長上に、現代の生殖補助医療や出生前診断などをおいて捉え返すのが第4の作業である。そして第5に、現在「切り札」的に語られる自己決定権という思想を再考してみたい。

本講義は「社会思想史B」の導入部的な意味あいをもち、概説的な内容にならざるを得ない。しかし「B」を受講しなくてもいいように、一応完結した内容にする予定である。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2/3以上出席したうえで、節目々々で感想・疑問などを書いて提出してもらおう。この提出物が5回以上(予定)の学生に試験資格が与えられ、最終的な評価はレポートによる。レポートの課題は各自の自由だが、講義との関連づけや思想史・社会史との関連づけを明確にする必要がある。この形式を満たしていれば「良」、不足していれば「可」、形式を満たす以上の内容が認められれば「優」とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は講義後、もしくは電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

【その他】